



漁港の静穏スペースを活用した魚介類の短期畜養サービス



- POINT!**
- 未利用である漁港内の静穏スペースを有効活用
 - シケに左右されない魚介類の安定供給を実現
 - 高浮力餌料の開発により畜養による海の汚染を防止



シナリオ

- 漁業は天候に左右されやすく、シケが続くと収入が大きく落ち込むため、安定的な収入確保が課題となっていた。
- 一方、地元水産物の提供を売りにしている地域の旅館などは、安定的な地元水産物の確保を課題としていた。
- そこで、漁業者と旅館組合が連携して、地元漁港の静穏スペースを利用し、魚介類の短期畜養を行うこととした。
- 静穏スペースとは、漁港内の比較的波が穏やかな区域であり、小規模であれば魚介類の畜養に適している。
- また、生け簀内の酸素濃度や水流を計測し、浮力の高い餌を開発するなど、海の汚染防止にも取り組む。

役割

漁業者

- 旅館組合が取りまとめた水産食材ニーズをもとに、過去の経験を活かして、シケなどの不漁時期を想定し、畜養必要量を算定する。
- 需要に応じた畜養スケジュールを作成し、畜養する魚介類の漁獲を行い、漁港内での短期畜養を行う。

旅館組合

- 地域旅館の水産食材ニーズを取りまとめ、漁業者と畜養スケジュールの調整を行う。
- また、地域旅館に対しては、漁業者の漁獲状況に応じて、獲れすぎた魚介類を使用したメニューの提案を行い、需給調整に貢献する。

餌メーカー

- 食べ残した餌の沈殿による海の汚染を防止するため、浮力の高い餌の開発を行う。

効果

漁業者

- 旅館組合との提携により、安定した販路を確保し、シケなどの不漁に影響を受けない安定した水産物の出荷が可能となり、漁業所得が向上する。
- 静穏スペースでの短期畜養は、海上養殖に比べて、生け簀からの魚介類の取り上げ作業、市場出荷作業が容易で、天候被害が少ない。
- 市況を見ながらの市場出荷が可能となることで、高価格・有利販売が実現できることから、売上の向上が期待できる。

旅館組合

- 地域旅館においては、宿泊客に対して、安定的に新鮮な地元水産物を提供できる強みをアピールすることができるため、集客力・売上が向上する。
- 漁業者との提携により、漁獲の多寡による価格の上下に左右されず、仕入れ価格が安定するため、計画的な経営が実現できる。

Column

短期畜養とは

- 水産物の供給量の平準化や品質の安定化等の目的で、漁獲した水産物を短期間生け簀の中で泳がせておくことをいう。これに対して、養殖は水産物の成育を積極的に増進し、数又は量を増加させることを目的とする。